

高潮浸水想定区域の見直しの概要

神奈川県では、台風などにより想定し得る最大規模の高潮が発生した場合に、東京湾沿岸で浸水が想定される区域を、高潮浸水想定区域として、平成31年4月に指定しました。

しかし、令和元年台風第15号に伴う高波によって高潮浸水想定区域を越えて浸水が発生した事例等があったことを受けて、国が「高潮浸水想定区域図作成の手引き」を改定したことに伴い、このたび高潮浸水想定区域を見直しました。

○ 今回見直した条件 ※赤字箇所を追加

・ 想定する台風の規模

台風の中心気圧 : 910hPa (室戸台風級) ※変更なし
暴風半径 (最大旋衡風速半径) : 20, 30, 40, 75km (伊勢湾台風級)
台風の移動速度 : 20, 30, 40, 50, 53, 60, 73km/h (伊勢湾台風級)

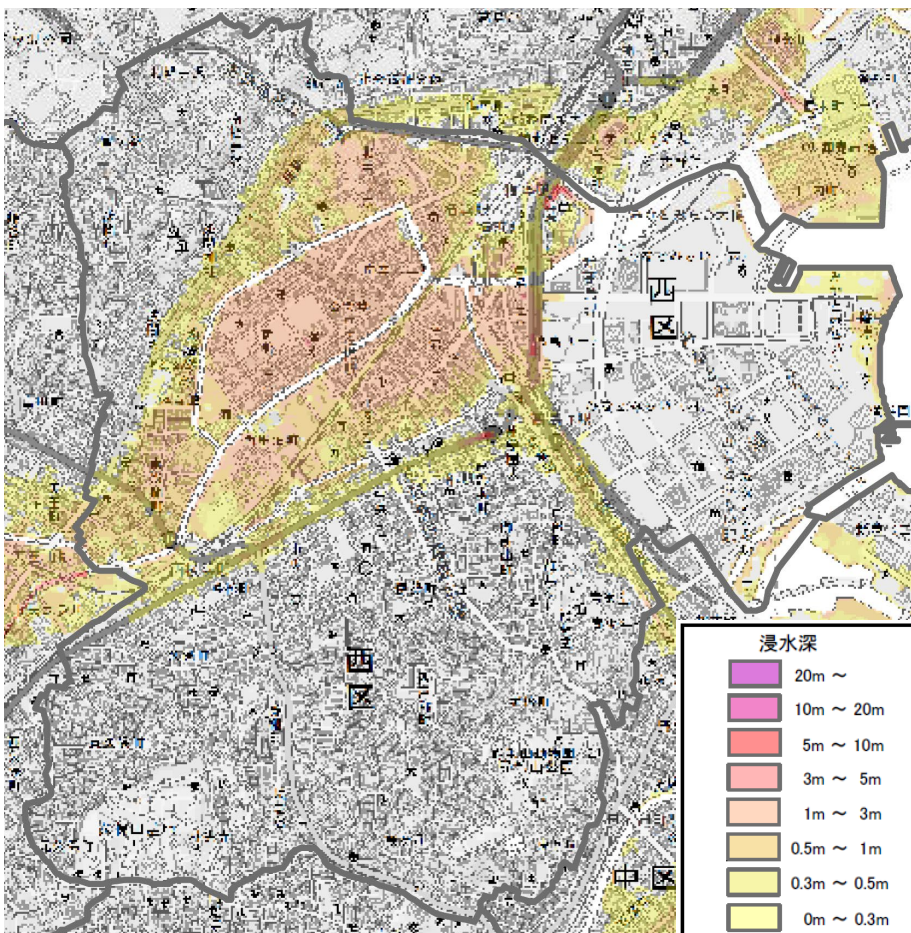
・ 最悪の事態を想定したシナリオ

- ①沿岸の構造物の決壊条件について、決壊あり・なしの両方を考慮
- ②想定する台風の経路、半径及び移動速度の条件を増やして検討し、より影響の大きい台風を選定
- ③台風接近に伴う降雨が想定されることから、河川における洪水の発生を想定

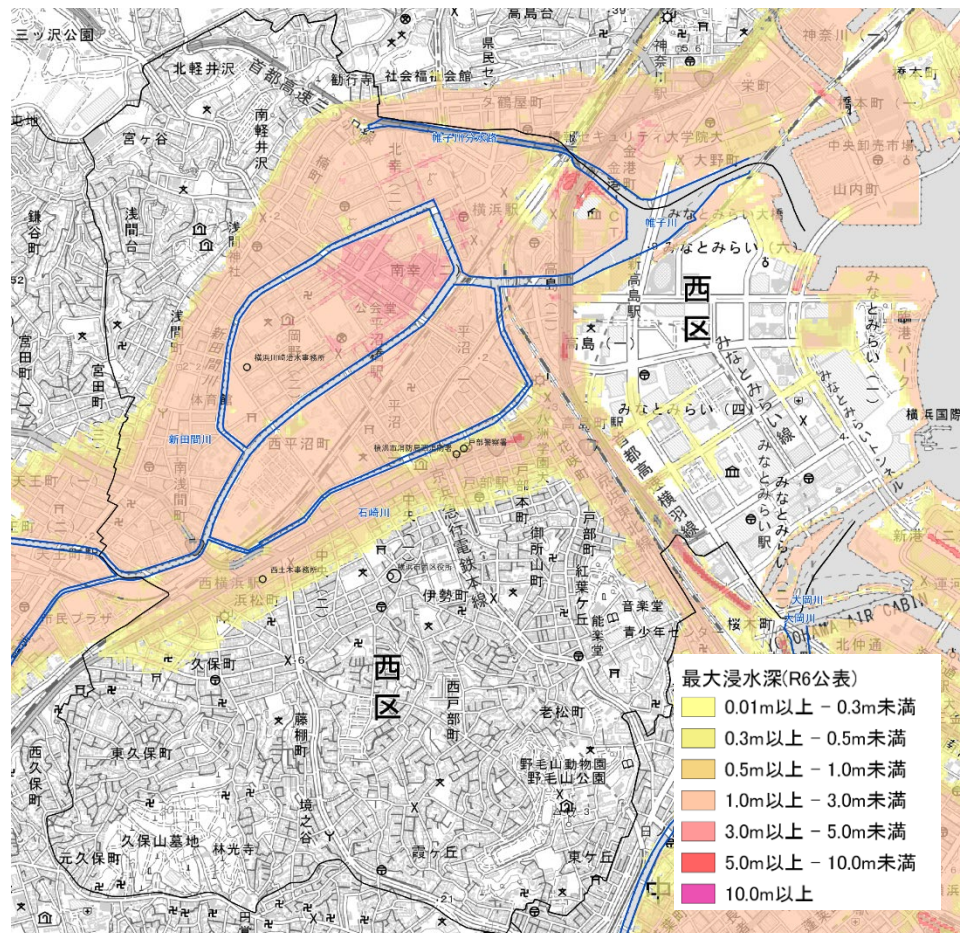
※想定する中心気圧の台風が東京湾周辺を通過する確率は1/1,000~1/5,000年程度に相当します。

○ 横浜市(西区)の浸水想定区域(比較)

最大の浸水深(前回)A=1.9km²



最大の浸水深(今回)A=2.6km²



高潮特別警戒水位の見直しについて

- ・ 「高潮特別警戒水位」は、高潮による災害の発生を特に警戒すべき水位で、基準水位観測所の水位が「高潮特別警戒水位」に到達した場合には、県は「高潮氾濫発生情報(警戒レベル5相当(緊急安全確保))」を公表し、報道機関等の協力を得て周知します。
- ・ このたび、高潮浸水想定区域の見直しに伴い「高潮特別警戒水位」を再検討するとともに、これまで横浜市の沿岸を4つの区間に分割して設定していた「高潮特別警戒水位」を、気象警報・注意報の発表単位と同様に1つに集約しました。

(横浜市の高潮特別警戒水位(見直し後))

水位周知実施区間	基準水位観測所	高潮特別警戒水位
横浜港	横須賀	T.P.+1.35m

※見直し後の高潮特別警戒水位は、令和6年4月末から運用を開始する予定です。

○ 状況に応じた避難行動

近隣の避難所や
浸水想定区域外への避難

高潮警報※等の発表 ⇒ 市が**避難指示**を発表

通常の水位 ↑ 危険な水位に達する予測



※高潮警報(警戒レベル4相当)

危険な水位に達することが予測される場合、3~6時間前に気象庁が発表する情報で、まだ風は強くない状況であり、近隣の避難所や浸水想定区域外へ避難できる段階

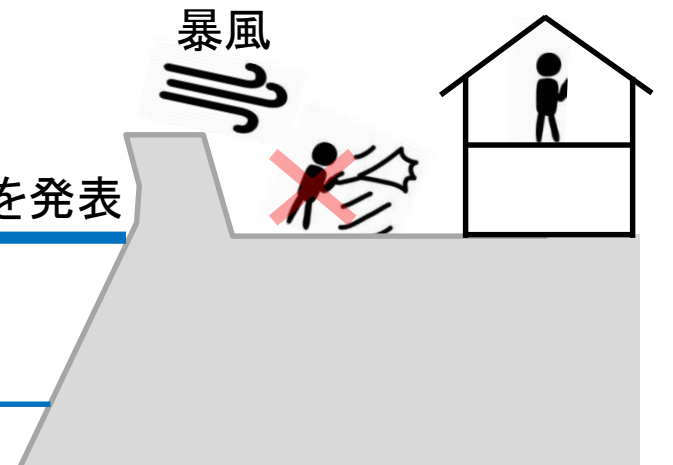
さらに水位が上昇

緊急安全確保
命の危険直ちに安全確保!

(水位の設定により追加する対応)

高潮特別警戒水位に到達 ⇒ 県が**高潮氾濫発生情報※**を発表

通常の水位 ↑ 高潮による水位の上昇



※高潮氾濫発生情報(警戒レベル5相当)

高潮により水位が上昇し、いつ氾濫が発生してもおかしくない切迫した状況であることを県が発表する情報で、氾濫の発生に対する対応(緊急安全確保)が求められる。